

# 幼児の畫因

東京帝大心理學研究室 櫻 林 仁

子供はどんな繪を描くのかしら、と云ふ疑問は、多少とも兒童に關心を持ち始めた人々の心にいだかれる問のいでせう。けれども、兒童の保育にたずさわつた経験のある人なら、直ぐにも答へられる簡単な質問なのでせうが、必ずしもその答が各人一樣だとは云へないのです。ドイツの兒童心理學者ウイリヤム・シュテルンやカール・ビュラーを始め、兒童畫を大量的に取扱つた事のある、ケルシエンシユタイナーやレヴィンシユタイン等は、兒童が最も多く描くのは人間で、動物が之に次ぎ、植物などは餘り描かれなない。それは兒童が生きた動くものに興味を感じるからだといふ。それは居ります。所がノールウエーの兒童心理學者エングはそんな事はないと云つてゐます。彼が調べたノールウエーの幼兒達は動物を餘り描いてゐないのです。同じドイツでもヘッツアーはウイーンの兒童が半數は家を描いてゐると報告してゐるし、フランスのリユケも兒童が人間を多く描く事は認めるが、それに加へて、一般に云はれてゐる様に、動物が家加はつた丈で、兒童の描畫目錄がつきる様

に考へるのは尙早で、兒童はその個性や環境によつて色々なものを描いてゐて、畫因は云はば無數であるまで云つてゐます。日本では三田谷博士が幼兒の繪を一千枚ばかり集めて調べてみた所が、男兒も女兒も動物をほごんご描いてゐません。(わづか一%餘り)そして男兒で一番多く描く對象は人間より乗物なのです。女兒でも人間より家や植物を餘計に描いてゐます。關西學院の今田教授もやはり、幼稚園から四千枚餘りの自由畫を集めて調べられましたが、描かれる對象の順位は、男兒では乗物・人物・旗の順で、女兒の方は植物・家屋・人物の順位に多く描かれてゐますが、動物などはやはりつゞき少くして約五%位です。それなら日本の子供はこれも動物を餘り描かないのかと云ふと、さうではなくて、久保博士のお子さんは、人物より動物を餘計に描いてゐますし、波多野さんのお子さんも動物を一番多く描いてゐたのでせうか。それならばさうしてこんなにちがひが出て來るのでせうか。波多野さんの長男の場合、いつも動物のおもちやに圍まれてゐましたし、

動物園にも度々行くのです。ウイリヤム・シユテルンの息子のギユンター君も始めは動物ばかり描いてゐましたが、旅行につれて行つた後には、今度は盛んに風景畫を描く様になりました。更に、ルイズ・メートランドが紹介してゐるエスキモーの兒童畫には全く植物も名づくものが描かれてゐないのです。こんな點からみて、一應環境の相違によつて、餘程兒童の描くものが違つてゐるのではないか云ふ考が浮んで來るでせう。それで私は色々環境的に特殊な場所の兒童に繪を描かせてみました。今こゝには大きく、都會の山手と下町及び農村兒の三つに大別して、その傾向を紹介してみませう。先づ最も多く描かれる對象についての順位を見ます(二六歳兒について)次の様になりました。

かうした漠然とした環境の分類によつても、すいぶん描かれるものに相違があるのに氣がつくでせう。表だけではつきりしないでせうから、その特徴をひろひあげて敘述してみます。先づ下町の兒童から始めませうか。こゝの兒童は人物の次に什器つまり家財道具を多く描いてゐるではないですか。山手の幼稚園兒なきはほんま描いてゐません(約八割)、農村兒も少ないのですから、これは、云はば下町兒童の專賣特許でも云ふ可きでせう。何しろこま／＼とした家財道具をつらり／＼並べて描くのですから。

山手	%	町	%	村	%	農	%
1 植 物	51.	1 人 物	54.	1 旗	68.	1 旗	68.
2 乘 物	44.	2 人 什 器	50.	2 植 物	43.	2 植 物	43.
3 家 屋	43.	3 乘 物	48.	3 人 物	41.	3 人 物	41.
4 人 物	30.	4 家 屋	42.	4 乘 物	32.	4 乘 物	32.
5 動 物	18.	5 旗	38.	5 家 屋	31.	5 家 屋	31.
6 土 木	17.	6 武 器	29.	6 動 物	16.	6 動 物	16.
7 武 器	13.	7 植 物	27.	7 什 器	15.	7 什 器	15.
8 旗	12.	8 火 植	23.	8 遊 具	12.	8 遊 具	12.
9 火 什	9.	9 遊 具	6.	9 食 物	9.	9 食 物	9.
10 遊 具	8.	10 食 物	6.	10 火 土	8.	10 火 土	8.
11 遊 具	4.	11 土 木	4.	11 武 器	7.	11 武 器	7.
12 模 様	3.	12 動 物	2.	12 武 器	1.	12 武 器	1.
13 食 物	3.	13 模 様	0.	13 模 様	0.	13 模 様	0.

それならこんな内容のものが描かれてゐるかのぞいて見ませう。まづチャブ臺・チャワン・オ皿・ハシ等の食事に関するものから、ツボ・セトモノ・ザル・パケツ・ハイトリ・下駄箱・ゴミ箱チャダンス・火鉢なきから、フトン・マクラに至るまで、まるで大掃除でござつたがへしてゐる様ではないですか。

農村では少ないながらもやはり食事道具を描くのも居ますが、タンス類は全く描かれませんし、山手では勿論皆無です。描いてもせい／＼カーテンとか、バスケット・日傘位です。それからまた、下町で特徴のあるのは、武器や火、つまり戦争をあらはす繪でして、農村・山手兒童に比べてすつと多いのです。ですからこの點からみても、下町兒童は山手や農村兒に比し比較的好戰的で、山手や農村の兒童は逆により平和的だ云へないでせうか。

それから下町兒童は都會兒童だから、同じ山手兒童さ描くものが似てゐても、農村さはずい分かけはなれてゐるだらう、さお考へでせうが、案外似てゐる點もあるのので、旗や遊具・食物などは山手に比して共に多い傾向を示してゐます。もつとも遊具を多く描く云ふ事は一寸不思議に思はれるでせう。なぜなら、遊具を一番豊に持つてゐるのは山手兒童でせうから。けれども山手兒童の持つてゐる遊具はみんな種類のものでせう。それは人形にしる乗物にしる、具體的な世界を空想させ、その空想の中で楽しむ様なものが多いでせう。ですから繪に現はれるにしても具體的な實物さして表現されて來るわけです。之に反して、下町や農村では、かうした現實を模造した様な空想的な文化遊具ではなくて、玉つころさか陣取さか地面の上で勝負を戦はせて、その戰の持つスリルを楽しんだりするのが下町

兒童の遊びであり、凧なさをあげて遊ぶのが農村兒の楽しみなので、この事は云はば下町や農村兒が、山手兒の現實空想的な遊びにふけるのに反し、専ら遊びそのものの形式を持つ現實的な楽しみをふけてゐる事を意味するもの云へるでせう。もう一つ似てゐるのは食べる物が割合に描かれる事で、山手兒童は描いてもせい／＼果物、それも樹になつてゐる様なものが多いですが、下町では果物も勿論入つては來ますが、むしろ、御飯・オカズ・お酒・オダンゴ・イモ・アメダマ等が主調なのです。農村では果物に野菜が加はり、その外にモチや團子なさが見られたりして、如何にも農村的です。かうした事は農村や下町の兒童が山手の兒童に比べて、生活的に共通な低さを持つてゐる事の現さみること出來ませう。生活的に低ければまた、教育的にも低い事がうなずかれるでせう。ですから旗や人物などの比較的初期の描畫對象が農村や下町に多い事も理解出来る事だ。

この様に下町さ農村は階級的な點で似た傾向を見せてゐるのですが、また他の方面では山手兒童の繪がかへつて農村兒童の繪に近い面をも持つてゐるのでして、その共通點さは、云はば共に田園性を持つてゐるさ云ふ事にある云へませう。なぜなら植物に於ても動物に於ても、山手兒童は農村兒童さ共に下町兒童よりはるかに多く描いてゐるの

ですから。

けれども、やはり山手兒童と下町兒童とは同じ都會の子供なので、ちがふなかにも共通な傾向が見られるのは當然でせう。その共通性は乗物と家屋の多い所に見出されませう。これをまあ都會性でも云つておきませうか。

かう云ふ風に、この廣い三つの環境の中でも描かれる物が率がすいぶん違つてゐるのが見られるでせう。それだから前に述べた人々が、それ／＼、ま／＼な意見をはいてゐるのも當然だと思はるでせう。

ついでにこゝで、發達の事について少し述べさせていただきます。云ふのは、始めからそのつもりで、對象表の中から地面や空や太陽や無意味描畫についての項目を抜かして置いたのですから、かう云ふ種類の對象は、他の對象と同じに取扱ふよりも、發達の標識として取あげてみる方が適當の様に思へるのです。發達を見るのには搔畫時代と圖式時代とに分けてありますが、之はつきり五分かれてゐるわけでもないのですし、圖式時代と云つても可成長いのですから、その外にも發達を見分ける標準が発見されれば、それに越した事はないでせう。それで労働科學研究所の桐原博士はずつと以前に、人物畫に現はれた細部描出度によつて、兒童畫の發達程度を見る標準を考案なさいました。女性が男性より人物を普段多く描いてゐるの

で、女性の方が發達してゐると思ふ事になつてしまふのですし、逆に乗物では男性の方がすつと上手なのです。そこで、女性にも男性にも平等な發達標準として、天地の形成つまり空間形成に著目するのが一の良い方法ではないかと思はれるのです。無意味描畫が次第に消えて來る頃から、そろ／＼空と地面とかが描かれて來ますし、そして四歳から五歳・六歳・七歳と年長になるにつれて増加して來るのですから、まことに／＼はつきり判別出來るのです。これにそつて面白い現象が天體つまり太陽や月の描出に現はれて來ます。天體の描出はあたかも幼兒の繪の典型的な傾向の様に思はれてゐる様ですが、よく觀察するに、その中にも、年齢によつて、消長のあるのにお氣付きでせう。つまり、空が描き始められる頃（五歳以前には、餘り描かれないに、空が描き始められると同時に、急に猫も杓子もおまじなひの様に描き入れてゐますが、七歳頃になつて、多少とも現實の描寫に近づいて來るに、天體もほん／＼描かれなくなつてゐるのですから。それでこゝに無意味筆跡・天體をふくむ天地描出・天體をふくまない天地描出の三傾向によつて大體の發達傾向を見ることが出來ると思ふのです。勿論例外もあり絶對完全と思ふ事は他の智能テストと同じ様に云へないでせうが、さしあつて最も簡單ではつきりしてゐる様に思へるのです。この方法で男女を描畫的に比較し

ます。大體同じ發達程度だ云へるのです。これによつて山手・下町・農村兒童の發達を計つてみましたら、勿論山手が一番發達してゐますが、下町・農村では下町の兒童の方が發達してゐました。

以上は大體環境云ふものがどんな風に兒童畫に影響を與へてゐるかを三つの環境別に調べてみたのですが、一概に環境を申しても、決して客觀的に人間を取巻いてゐるから云つて同じ様に各個人に働きかけ、影響を與へてゐることは云へないのです。そこにはやはり個人的な環境への反應の仕方によつて、現實に働きかけて來る主觀的な環境を作り出してゐる云ふ事が出来るでせう。例へば私が或軍港地の兒童畫を、陸軍演習地の兒童畫を調べた所が、勿論海軍地の男兒の大部分は軍艦を飛行機ばかり描き、陸軍地の男兒は之に反してタンクを飛行機を専ら描いてゐました。所が女兒の方は何れもかうした種類のものを一切描いてゐません。そばで機關銃の音や飛行機の音がしてゐるのに全く無關心の様です。女兒は男兒でこんなにもちがふのにはおどろきました。普通男兒は女兒の描畫上の差異は明らかに認められて居られる通りでせうが、これ程は思はなかつたのでした。ついでに私が都會兒童(六歲)について調べた男女の描畫傾向の差異を御紹介します。男兒に多い傾向は、乗物・武器・旗・火・土木等の動的なものに限ら

れてゐましたし、女兒の方は、植物・家屋・人物・什器・食物なき靜的であると同時に家庭的な傾向をはつきり見せてゐたのにも、いきゝかおどろきました。

この様に個體の反應如何が環境を作り出してゐることも云へるので、大人によつては意外な事が子供に強く働きかける云ふ事も起つて來るわけです。それで子供に與へようとしたものが案外反撥されて失敗した経験もお有りな事と思ひます。繪の事でも例へば繪を描きたがらなかつたり、或物を描かせようとするさばかりのものを描いてしまつたりして、なか／＼手のやける事です。それなら繪を描く云ふ事を子供は好まないか云ふことは云へないでせう。度々繪を描かせてゐる様な幼稚園では大抵の者は繪を描くのを好む様です。特に描かせなくても、描く機會を與へれば模倣によつて進んで描く様です。下町を通る路上には實に豊かな繪が描かれてゐるではありませんか。かう云ふ風に進んで描きたがる一方、なか／＼描きたがらない場合もあるのは御経験の事だせう。私が農村の兒童を集めて繪を描せようとした所が、みんな「カケネ」なご云つたり「オラ、エナンカキレ」なご云つてなかく、應じません。それでも紙を前にしてしばらくしてゐます。幾分落著が出て來て、一人二人クレオンを紙にこすりつけたりする者が出て來ました。十分から十五分位たつて皆熱中して線をこねまわしてゐます。そして一度ばかり描いた

的な氣分が生れて來るゝ案外その惰性があこをひいて何枚も描く者が出て來ました。或下町の託兒所では月曜日にはいつも子供が落付がなくそわ／＼してゐるのに、繪を描かせた所がふだんよりすつ／＼下手な繪が出來上つてしまひましたが、落著いてゐる時には随分上手な繪が描けました。また歌やお話をした後の空想的な時もよいようでした。かうした例を見ますと、結局繪を描かせる前には何か繪を描きたくなる様な氣分を出す様にする必要が痛感されます。氣分を必要とするのは何も天才畫家に限つた事はないでせう。私の近親の幼兒は繪は下手で人の前ではなかなか描きたがりません。でも氣分のよい時には何かわからぬ様な歌をうたひながら、繪を描いてゐる事がありません。繪の下手な事を一寸でも批評するともうだめです。それからこれは私の推測ですが、さうもクレオンと云ふものは繪の描始に持たせるには餘りに複雑で取扱ひにくいもの様に思はれます。ロー石ではとても元氣に描く兒童もクレオンではいさゝか勝手がちがふ様です。或幼兒は大人の親指大のある太いクレオンを與へられてよろこんで、縦に線を引きかう／＼したところがボキリとおれてしまひました。次ぎ／＼に續けざまに折つてしまひ第六本目でやつ／＼折れずに線を引きました。道具が意の如くあやつれない時には、それが爲に繪を描く事をさまたげる結果ともなり得ないでせうか。また色そのものも始めは使分けが出來ません。

そして鉛筆があるをそれを使ひたがるのを見受けませう。描畫的な腕の操作の自信が或程度出來てからクレオンを持つ事がそんなに描畫を愛させる様にし得る事とせうか。こゝには特に保育内容が兒童の畫因となる場合の條件を考へてみませう。私が各所で調べた結果によるを、塗繪でやつた形式を非常によく活用する様です。そして貼繪や折紙になるを少し程度が下つて來、歌や紙芝居も或程度影響しますが、お話は一番影響が少なかつた様でした。つまり唯お話丈ですと、繪を描くのになんか形を作つてよいかかなかむづかしいものでせう。或る印象が單に視覺的に與へられた丈でなく觸覺的にも情緒的にも強く印象づけられた方が影響力が強いこゝは勿論推察出來る事とせう。或託兒所で鳥を見せてその印象を描かせた事がありました。が、その後之を續けて描く者がなかつたのに、或幼稚園では鳥に赤カブを植ゑ、それが大きくなつたのをみんなで少しづつ、お辨當の時食べたのが非常に兒童を喜ばせ、しばらくの間は、進んで鳥に赤カブの繪を描いてゐました。かう云ふ風にして、兒童畫を描きよ、好きな遊びにする事は、兒童の生活内容を豊に樂しくする爲に努力さる可きものと思つてゐます。以上は大體幼兒がどんな風な畫因を持つてゐるか、それが兒童の性質と環境の影響を多分に持つてゐる事から、さう云ふ風にしてそれらの條件を活用したら、よいか、と云ふ事について、述べて見ました。